# 永遠の真理

**ETERNAL TRUTH** 



2012年 3月

「キリストの第一の誘惑(Ⅱ)」「恵みの御座」「信仰と行い」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「キリストの第一の誘惑 (II)」

4

朝のマナ

「恵みの御座」

神の驚くべき恵み

8

現代の真理

「信仰と行い」

40

後の雨を受けるためのわたしたちの準備(Ⅲ)

力を得るための食事

「グルテンミートとカシューナッツの野菜炒め」48

お話コーナー

「鳥をながめる」

50

#### 教会

#### 【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話: 0494-22-0465 FAX: 0494-26-5059

#### 【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話:088-831-9535

#### 【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21 電話: 0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ:http://www.4angels.jp メール:support@4angels.jp

発行日 2012年2月29日 編集の数年 SDA 北井運動

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション 〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト:comstock.com p.1; Gettyimages p.1; Sermonview p.9

Printed in Japan

## 改心の過程

風は木々のこずえに音をたて、葉や草花をさらさらと鳴らせるが、目に見えないので、だれも風がどこからきてどこへ行くかを知らない。心に働く聖霊の働きもこれと同じである。それは、風の動きと同じように、説明することができない。人は自分が信仰にはいった正確な日時と場所を言ったり、入信の過程における事情を始めから終りまで説明したりすることができないかも知れない。だがそのことは、彼が信仰にはいっていないという証拠にはならない。風のように目に見えない力によって、キリストはたえず心に働きかけておられる。すこしずつ、おそらく本人の気がつかないうちに、魂をキリストへひきよせるのに役立つ印象が与えられているのである。こうした印象は、キリストについて瞑想したり、聖書を読んだり、あるいは説教者のことばをきいたりすることによって与えられるかもしれない。そしてみたまがもっと直接に訴えるとき、突然にその魂はよろこんでイエスに屈服する。多くの人はこれを突然の改心と呼ぶが、それは神のみたまが長い間その人を説得した結果、すなわち長期間にわたる忍耐強い作用の結果である。

風自体は目に見えないが、風によって生ずる結果は見たり感じたりすることができる。同じように、魂に対するみたまの働きは、その救いの力を感じた人のすべての行為にあらわれる。神のみたまが心を占領されるとき、それは生活を生れ変らせる。罪の思いはしりぞけられ、悪い行為は放棄され、愛と謙遜と平安が怒りとねたみと争いに入れ代る。よろこびが悲しみに入れ代り、顔には天の光が反映する。だれも重荷を持ちあげる手を見たり、天の宮からくだる光を目に見たりする者はない。祝福は、信仰によって魂が神に屈服するときに与えられる。その時、人間の目で見ることのできない力が、神のかたちにかたどって新しい人間を創造する。

限りある人間の頭脳ではあがないの働きを理解することは不可能である。あがないの奥義は、人間の知識を超越している。それでも、死から生へ移る者は、それが天来の事実であることをみとめる。われわれは、あがないの発端はこの世において個人的な経験を通して知ることができる。しかしその結果は永遠の時代にまで及んでいるのである。(各時代の希望上巻 202, 203)

十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとわれのうちに働かれるキリストのみかたちに新しくつくられる(ピリピ 3:21)。その時神の律法は心と思いにしるされ、われわれはキリストとともに、「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます」と言うことができる(詩篇 40:8)。(各時代の希望上巻 207, 208)

#### 受肉ーキリストの性質

## 「キリストの第一の誘惑(II)」

#### キリストは誘惑にかかわり合われなかった

イエスは、どのようにご自分が神の御子であられるか、またどのような方法でご自分がふるまうことになっておられるかなどを、敵に説明するために身を低くするようなことをなさらなかった。サタンは、侮辱的なあざけるような調子で、キリストの今の弱さや望ましくない様子を、自分自身の強さや栄光と対照的に言及した。彼はキリストが天使たちの高められた指揮官、王宮で認められた王というよりは、天使たちのみじめな代表だとあざけった。彼の今の様子は、彼が神と人から捨てられたことを示唆している。もしキリストが本当に神の子、すなわち天の君であられるなら、神と等しい力を持っているのだから、奇跡を働き、自分の足元にある石をパンに変え、ご自分の飢えを満たすことによって、証拠を与えることができるはずだと言った。サタンは、もしキリストがそうするならば、自分はすぐにもその至上権の主張を明け渡し、自分とキリストの間の争闘は、永遠に終結すると約束した。

キリストはサタンがののしり愚弄するのに気づいておられないかのようであった。このお方は挑発されて、ご自分の力の証拠を見せるようなことはなさらなかった。このお方はののしり返すことなく、柔和に侮辱を忍ばれた。バプテスマのときに天から語られた言葉はこのお方にとって非常に尊く、人間の身代わりまた保証人として、救いの計画において進めているこのお方の歩みを、御父が承認しておられるという証拠を与えるものであった。天が開かれ、天のはとが下ってきたことは、人間をサタンの支配から救出するために、御父が天におけるご自分のみ力を、地上における御子の力に結合させて下さること、また地を天に、有限な人間を無限のお方につなげるためのキリストの努力を、神が受け入れて下さることの保証であった。

御父から受けたこれらのしるしは、神の御子にとって、このお方のあらゆる厳しい苦難と反逆の将との恐ろしい争闘を通じて、言い表しがたいほど尊いものであった。そして荒野で神のテストに耐えている間も、ご自分の公生涯の全期間を通じても、このお方はご自身の力や、ご自分が世の救い主であることを、サタンを納得させるためにかかわり合うことはなさらなかった。サタンにはこのお方の高められた地位について十分な証拠があった。イエスにしかるべき誉れを与え、臣

下として服従を表すことをしたくない彼の思いが熟して、神に対する反逆となり、 それが彼を天から締め出した。

キリストの使命には、少しでもご自分の益のため、苦しみからご自分を解放するために、ご自分の神の力を働かせることはなかった。これをこのお方は引き受けられた。このお方は、人間の性質を取るまでにへりくだられた。そしてこのお方は人類家族の不都合、病気、苦悩に苦しまれるのであった。このお方は自分自身のために奇跡を働いてはならなかった。このお方は他人を救うために来られた。このお方の使命の目的は、祝福と希望と命を、苦しみ、圧迫されている人々にもたらすことであった。このお方は苦しむ人類の重荷と悲しみを担われるのであった。

キリストは、最も鋭い飢えの痛みに苦しんでおられたにもかかわらず、誘惑に耐えられた。このお方は、反逆のイスラエルが自分たちの食事を制限され、肉の食物をやかましく求めたときに荒野で繰り返すためにモーセにお与えになったのと同じ聖句をもってサタンを撃退された。「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」(マタイ4:4)。この宣言においても、またご自分の模範によっても、キリストは現世の食物に対する飢えは、人間に降りかかる最大の災難なのではないことをお示しになった。サタンは、最初の父祖たちに、神が彼らに禁じられた知識の木の実を食べると、すばらしい恩恵を受け、彼らを死から守ると、まさに神が彼らに宣言なさった真理と反対のことを言ってそそのかした。「しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」(創世記2:17)。もしアダムが従順であったならば、決して、欠乏や悲しみや死を知ることはなかったのである。

もし洪水前の人々が神のみ言葉に従順であったならば、彼らの命は保たれ、洪水によって滅ぼされることはなかったのである。もしイスラエル人が神のみ言葉に従順であったならば、このお方は彼らに特別な祝福を授けられたのであった。しかし、彼らは食欲と情欲の放縦の結果に陥った。彼らは神のみ言葉に従順でなかった。ゆがめられた食欲の放縦は、彼らを数々の嘆かわしい罪へと導いた。もし彼らが神のご要求を第一に考慮し、適切な食物として神が自分たちのために選ばれた選択に服することによって、自分たちの肉体的な要求を二次的なものとしていたならば、彼らのうちだれ一人として荒野で倒れることはなかったのである。彼らは、部族に一人も弱い者なく、聖なる健康的な民として、良きカナンの地に定着したはずであった。

世の救い主は人類のために罪となられた。人間の身代わりとなることにおいて、 キリストは神の御子としてのご自分の力を表わされなかった。このお方はご自身を人 の子のうちにおかれた。このお方は人間の代わりに、最も厳しい状況の下で、人とし て誘惑の試練を耐え、ご自分の天父への信仰と完全な信頼の模範を残されるので あった。キリストはご自分の御父がそうしようと思われるときに、食物を備えてくださることをご存じであった。このお方は飢えが測り知れないほど押し迫ったこの厳しい試練のときに、ご自分の神の力を働かせることによって、ご自分の分として与えられた試練をほんのわずかでも時期尚早に減じるようなことはなさらなかった。

堕落した人類は、つらい状況におかれたとき、自分自身のために奇跡を働いて、痛みや苦悩から自らを救い出したり、自ら敵に対する勝利を与えたりすることはできなかった。人類をテストし、試し、ご自分の愛と力を信じる彼らの信仰と信頼を試すために、彼らをしばしばつらい立場におくことによって、品性を発達させる機会をお与えになることが神のご目的であった。キリストのご生涯は完全な型であった。このお方はつねに、ご自分の模範と教えによって、神こそ人のよりどころであり、人の信仰と固い信頼は神にあるべきことを教えられた。

キリストは、サタンが初めから偽り者であること、そしてこの侮辱的な欺瞞者の陳述を聞きながら、ただちにその無礼な仮定の話を譴責せずにいるためには、強い自制心が要求されることをご存じであった。サタンは、神の御子を挑発し、自分との論争に入らせようと期待していた。また、こうしてこのお方がはなはだしく弱り、霊的な苦悩のうちにあるときに、このお方に対して優位に立つことを望んでいた。彼はキリストの言葉を曲解して優位性を主張し、また援助のために自分の堕落した使たちを召集し、このお方に打ち勝ち、勝利するために最大限の力を用いるようもくろんだ。

世の救い主は、天にいられなくなったゆえ、追放されたサタンと論争なさらなかった。神の御使たちが自分たちの最高統治者に対して、またその愛する司令官である御子に対して反対するように感化を及ぼし、彼らの同情を自分のために得ることのできた者は、どんな欺瞞でも働くことができた。四千年間、彼らは神の統治に対して戦ってきたが、誘惑と欺瞞の技能や力を少しも失うことはなかった。

#### キリストを通しての勝利

堕落した人類は、自分の人間の力ではサタンに勝利することができなかったので、キリストはご自分の人性と神性の結合した力をもって、人類を助けるために天の王宮から来られた。エデンにおけるアダムは自分のすぐれた優位性をもって、サタンの誘惑に耐え、彼に勝てるはずであることを、キリストはご存じであった。このお方はまた、堕落以来、人間がエデンの外において神の光と愛から分離した状態にありながら、自分自身の力でサタンの誘惑に抵抗することは不可能だということもご存じであった。人間に希望をもたらし、完全な破滅から救うために、このお方は自らへりくだって人性を取られた。それは、このお方が人間の力と結

合したご自分の神の力をもって、人類にそのいる場所で手を差し伸べることがおできになるためであった。ご自分の御名のうちに彼らがサタンの誘惑に勝利することができるように、このお方は堕落したアダムのむすこ娘たちのために、彼らが自分では得ることはできない力を獲得してくださる。

高められた神の御子は、人性を取られて、罪人の身代わりとして立つことによって、自ら人間の近くに来られた。このお方は人間の苦しみや苦悩を共にされた。このお方は人が誘惑されるように、あらゆる点において誘惑された。それはこのお方が誘惑される人々をどのように救うかをお知りになるためであった。キリストは罪人のために勝利された。

ヤコブは、夜の幻のうちに、神の御座に届くはしごによって、地が天とつながっていることを見た。彼は神の御使たちが、天の輝きの衣をまとい、この輝くはしごの上を天から上り下りしているのを見た。このはしごの下は地に着き、一方そのてっぺんは、最高の天にまで届き、エホバの御座にかかっていた。神の御座からの輝きが下に向かってこのはしごの上に光を発し、言葉にできないほどの栄光の光を地上に反射していた。

このはしごは、天地の交信を開かれたキリストを表していた。キリストは、そのへりくだりにおいて、堕落した人間のための同情と憐れみのうちに、人間の苦悩の深みの奥にまで降りてこられた。これは、一方が地にかかり、はしごのてっぺんが天にかかっていることによってヤコブに表わされたが、無限のお方をつかみ、こうして地を天に、また有限な人間を無限な神に結びつけられるキリストの神聖な力を表わしている。キリストを通して神と人の間の交信が開かれる。御使たちは天から愛のメッセージを堕落した人類に伝え、救いを受け継ぐべき人々に仕えることができる。天の使者たちが人に奉仕ができるのは、ただキリストを通してのみである。

エデンにおけるアダムとエバは、最も望ましい環境におかれていた。神や御使たちと交わりを持つことは彼らの特権であった。彼らは罪の宣告を受けていなかった。神の光と御使たちが彼らと共にあり、彼らを囲んでいた。彼らの存在の創始者が、彼らの教師であられた。しかし、彼らは、巧妙な敵の力と誘惑の下に屈した。四千年間、サタンは神の統治に反対して働いてきた。そして彼は断固とした実践によって力と経験を得てきた。堕落した人類には、エデンのアダムが持っていた優位性はなかった。人類は四千年間、神から離れてしまっていた。理解するための知恵、サタンの誘惑に抵抗するための力はますますなくなり、ついにサタンが地において勝利して統治しているかのようである。食欲と情欲、世の愛と、故意の罪は、悪の大枝であり、そこから、あらゆる種類の犯罪、暴力、堕落が育つのである。

## 神の驚くべき恵み

God's Amazing Grace



3月 「恵みの御座」

恵みの御座 3月1日

## 天の最高の魅力

「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。」(ヘブル 4:16)

キリストが、「わたしたちの弱さを思いやる」ことのできる情け深い仲保者であることを指摘したあとで、使徒は、「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵み……を受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか」と言っている。恵みのみ座は、恵みの王国を代表している。なぜならばみ座の存在することは、王国の存在を意味しているからである。(各時代の大争闘下巻 40)

わたしたちのための神の取り決めと授与には制限がない。恵みの御座は、ご自身を父と呼ぶことを許してくださるお方によって占められているがゆえに、それ自体最も魅力のある場所である。しかし、神はご自身の愛を注ぐだけで、救いの原則が完全であるとはお考えにならなかった。このお方はご自分の取り決めにより、わたしたちの性質をまとった助け主をご自分の祭壇に置かれたのである。このお方の職務は、仲保者として神にわたしたちをそのむすこ娘として紹介なさることである。キリストは、ご自分を受け入れる者のため、ご自身の功績の徳によって王家の一員、天の王の子となる力を与える者のためにとりなされる。そして御父はキリストの友をご自身の友として受け入れ、歓迎することにより、その血でわたしたちの贖い代を払われたキリストへの無限の愛を証明される。このお方はなされた贖罪に満足され、御子の受肉、生涯、死、仲保によって栄光をお受けになるのである。

神の子が恵みの御座に近づくやいなや、彼は偉大な助け主の依頼人となる。彼が悔い改めと許しを求める哀願を口にする最初の言葉で、キリストは彼の訴えを取り上げ、それをご自身のものとし、御父の前にご自身の願いとして嘆願をお捧げになる。

キリストがわたしたちのためにとりなしをなさるとき、御父はご自分の恵みの富をみな開き、わたしたちがそれを自分のものとし、楽しみ、他の人々に知らせることができるようにしてくださる。「わたしの名によって求めなさい。」「あなたがたのために父に願ってあげようとは言うまい。父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それはあなたがたがわたしを愛したためである。」わたしの名を使いなさい。これはあなたがたの祈りを効果のあるものとし、父はご自分の恵みの富をあなたがたにお与えになるであろう。「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」(ヨハネ6:24)。(教会への証6巻363,364)

3月2日 恵みの御座

#### キリストは御座におられる大祭司

「さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。」 (ヘブル 4:14)

神の住居である天の宮において、そのみ座は、義と公正に基づいている。至 聖所には、正義の規準である神の律法があって、全人類がそれによって審査されるのである。律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖いの計画における、義といつくしみの結合が表わされている。……

キリストは今、祭司として、父とともにみ座についておられる (黙示録 3:21 参照)。永遠の、自存なさるおかたとともに、「われわれの病を負い、われわれの悲しみをになった」かた、「罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ」、「試練の中にある者たちを助けることができる」かたが、おられるのである。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主……がおられる」(イザヤ 53:4、ヘブル 4:15、2:18、ヨハネ第一 2:1)。彼の仲保は、刺され砕かれた体による仲保、罪のない 生涯による仲保である。傷ついた手、刺されたわき、傷ついた足が、罪に陥った人類のために嘆願しておられる。人間の贖罪のためには、このように無限の価が払われたのである。(各時代の大争闘下巻  $127\sim129$ )

天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。……品性の欠陥を通して、サタンはその人の心全体を支配しようと働きかける。彼は、人がこれらの欠陥に固執するならば、自分が成功を収めることを知っている。それだから彼は、欠陥に打ち勝つことは不可能であるという致命的な詭弁をもって、キリストに従う人々を欺こうと、いつもけんめいになっている。しかしイエスは、彼の傷ついた手と砕かれた体をもって、彼らのために嘆願される。そして、彼に従ってくるすべての者に「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と宣言されるのである(コリント第二 12:9)。……それだから、だれでも、自分たちの欠陥は不治のものであると思ってはならない。神は、それらに打ち勝つ信仰と恵みをお与えになるのである。

われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。……自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。(各時代の大争闘下巻 222 ~ 224)

恵みの御座 3月3日

## 虹にとりまかれている

「見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがあった。……また、御座のまわりには、……にじが現れていた。」(黙示録 4:2, 3)

天のみ座をとりまいている約束の虹は、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」という永遠のあかしである(ヨハネ 3:16)。それは神がご自分の民を悪との戦いに放っておかれないということを宇宙にあかししている。それは、み座そのものが続くかぎり、力と保護とをわれわれに保証している。(各時代の希望中巻 293)

雲の中にある虹は日光と雨の結合によってつくられる。そのように御座を取り 巻いている虹はあわれみと正義の結びついた力をあらわしている。正義だけが維 持されるべきなのではない。なぜなら、それは御座の上にある約束の虹の栄光 を衰えさせることになるからである。すなわち、人は律法の罰だけを見かねない からである。正義、罰のないところには神の統治に安定性はない。

救いを十分かつ完全にするのは正義とあわれみの混じりあったものである。それはわたしたちを導く二つのものの混合であり、わたしたちが世の贖い主とエホバの律法を見るとき、「あなたの助け (優しさ) は、わたしを大いなる者とされた」と叫ぶためである(サムエル上 22:36)。福音は完全かつ完成した体系であり、神の律法の不変性を表わしていることをわたしたちは知っている。……あわれみは、門を通って神の都に入るようにとわたしたちを招き、正義はすべての従順な魂に王家の一員、天の王の子としての十分な特権を与えるために、犠牲を払った。(パイプル・コメソリ [E.G. お7付コメント] 6巻1071,1072)

信仰によってわたしたちは御座の周りを取り巻いている虹、その後ろで告白された罪の雲を見上げよう。約束の虹は、へりくだり、悔いて信じているどの魂にも、彼の命はキリストと一つでありキリストは神と一つであることを保証している。神の怒りはこのお方のうちに避け所を求める一人の魂にさえ注がれることはない。神ご自身が「わたしはその血を見て、あなたがたの所を過ぎ越すであろう。」「にじが雲の中に現れるとき、わたしはこれを見て、……永遠の契約を思いおこすであろう」と宣言しておられる(出エジプト12:13、創世記9:16)。(牧師への証157)

3月4日 恵みの御座

#### 至聖所において

「しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ。」(ハバクク 2:20)

わたしは御座を見た。そして、その上に父なる神と御子が座っておられた。わたしは、イエスのお顔をじっと見つめて、彼の美しい姿を賛美した。わたしは、父なる神のお姿を見ることはできなかった。それは、栄光に輝く雲が、神をおおっていたからである。わたしは、父なる神が、イエスご自身と同じような姿をしておられるかを、イエスにたずねた。イエスは、同じ姿であると言われた。しかし、わたしは、その姿を見ることができなかった。「もしあなたが神のお姿の栄光を見たならば、生きていることはできない」とイエスが言われたからである。……

わたしは、父なる神が御座から立たれて、炎の車に乗って幕のなかの至聖所にはいられ、お座りになるのを見た。それから、イエスが御座から立ち上がられた。……そのとき火の炎のような輪がついた雲の車が、天使たちにかこまれて、イエスがおられるところに来た。彼は、その車に乗って、父なる神が座っておられる至聖所にはいっていかれた。そこでわたしは、父なる神の前に立っておられる大祭司イエスを見た。(初代文集 125, 126)

箱の両端には、ふたりの美しいケルビムが、翼を高く伸べて立ち、イエスが贖罪所の前に立たれるとき、彼の頭上で、翼が触れあった。彼らの顔は、互いに向かい合い、箱を見下ろしていて、全天使軍が、神の律法に深い関心を抱いていることをあらわしていた。ケルビムの間に金の香炉があって、聖徒たちが信仰をもってささげる祈りが、イエスのところに達し、彼がそれを父なる神の前におささげになったときに、色鮮やかな煙のように香炉から香がたちのぼった。箱の前で、イエスが立っておられるところの上の方に、わたしが見ることのできない光り輝く栄光があった。それは、神の御座のように見えた。(初代文集 411, 412)

十字架にかかられたわたしたちの主は、恵みの御座におられる御父のみ前でわたしたちのために嘆願しておられる。わたしたちはこのお方の贖罪の犠牲を自分たちの許し、義認、聖化のために嘆願できる。ほふられた小羊はわたしたちの唯一の希望である。わたしたちの信仰はこのお方を見上げ、このお方をきわみまで救うことのできるお方としてつかむべきである。そのとき、十分な力ある捧げ物の香が御父に受け入れられる。……キリストの栄光はわたしたちの成功にかかっている。このお方はすべての人間に関心をもっておられ、同情心にあふれたわたしたちの救い主であられる。(パイプル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント] 7巻948)

恵みの御座 3月5日

#### セラピムに守られて

「ウジヤ王の死んだ年、わたしは主が高くあげられたみくらに座し、その衣のす そが神殿に満ちているのを見た。」(イザヤ 6:1)

神がイザヤをご自分の民へのメッセージを持たせてお送りになったとき、預言者がまず聖所の中の至聖所を見ることを許された。突然門と聖所の中のとばりが引き上げられたか、引き下ろされたように見えて、預言者の足ですら入ることのできない至聖所の中をじっと見ることを許された。彼の前に高く上げられた御座に座っておられるエホバの幻が浮かび、その栄光に満ちた衣のすそは宮に満ちていた。御座の周りには偉大な王を取り巻く護衛のセラピムがおり、彼らを取り巻く栄光を反射していた。彼らの賛美の歌が崇敬の深い調べで反響したとき、あたかも地震で揺れたかのように門の柱が震えた。この天使たちは罪に汚れていない唇から神への崇拝があふれ出た。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ」(イザヤ 6:3)。

御座の周りのセラピムは、神の栄光を見るとき敬虔な畏れに満たされるので、一瞬たりとも自分を称賛の目で見ることはない。彼らの賛美は万軍の主のためである。彼らが未来を見るとき、全地は主の栄光で満たされ、勝利の歌が「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主」との耳に心地よい詠唱で互いに繰り返す。彼らは神の栄光をたたえることで完全に満足し、そのご臨在のうちにとどまり、その是認の笑顔の下で、これ以上なにも望むものはない。(福音宣伝者 21)

サタンが自分のものだと主張し、圧政をもって支配して来た世界を、神のみ子は、大いなるお働きによって愛のうちに包み、再びエホバのみ座とつながれたのである。この勝利が確立した時、ケルビムとセラピム、堕落しない諸世界の無数の大群衆は、神と小羊とに賛美の歌をささげた。彼らは、堕落した人類に救いの道が開かれて、地が罪ののろいからあがなわれることを喜んだ。ましてこのような驚くべき愛の対象であるわたしたち自身はどんなにか喜ぶべきであろうか。どうしてわたしたちは、疑いや不安にとらわれたり、自分が孤児であるように感じたりすることができるだろうか。(祝福の山130)

3月6日 恵みの御座

## 義を基として

「雲と暗やみとはそのまわりにあり、義と正とはそのみくらの基である。」(詩篇 97:2)

神は、その被造物に対するすべての扱いにおいて、罪の本性を明らかにあらわし、その確実な結果は、悲惨と死であることを実証して、義の原則を維持なさった。罪を無条件で許すことは、これまでになかったし、これからもないのである。そのような許しは神の政府の基礎そのものである義の原則を廃棄することになる。それは、堕落しない宇宙を驚嘆させることであろう。神は、忠実に罪の結果を指摘なさった。ところが、もしその警告が真実でないとすれば、どうして、神の約束が成就することを確かめることができようか。正義を廃棄するようないわゆる慈愛は、慈愛ではなくて弱さである。

神は、生命の与え主である。初めから、神の律法はみな生命を与えるように 定められたものである。しかし、罪が、神のお設けになった秩序を破壊して、不 調和をもたらした。罪が存在するかぎり、苦難と死は避けられない。人間が罪 の恐ろしい結果から、自分でのがれる希望を持つことができるのは、ただ、贖い 主がわれわれに代わって罪ののろいを負ってくださったことのみによるのである。 (人類のあけぼの下巻 155)

わたしたちはキリストを自分の個人的な救い主として受け入れるべきである。 そうすればこのお方はわたしたちにキリストの内にある神の義を着せてくださる。 ……「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わ たしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。こ こに愛がある(ヨハネ第一4:10)。

神の愛のうちには尊い真理の最も驚くべき鉱脈が開かれており、キリストの恵みの宝は、教会と世の前に置かれている。……これはなんという愛、わたしたちがまだ罪人であったときにわたしたちのためにキリストを死ぬようにと導かれた、なんと驚くべき、測ることのできない愛であることか。律法の強い要求を理解しながら、ますます満ちあふれるキリストの恵みを理解するのに失敗する魂には、なんという損失であろうか。……カルバリーの十字架を見なさい。それは無限の愛の永続的な誓約、天父の測り知れない恵みである。(セレクテッド・メッセージ1巻155,156)

イスラエルには、しえたげられているすべての者を解放なさる神がおられる。 義はその御座の基である。(教会への証 5 巻 197) 恵みの御座 3月7日

## 義と公平のうちに設立される

「義と公平はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます。」 (詩篇 89:14)

イエスを通して、神のあわれみが人類にあらわされた。だがあわれみは義を無視しない。律法は、神のご品性の特質をあらわしているので、その一点一画も、堕落した状態にある人間に合うように変えることはできない。神は律法を変更しないで、人のあがないのためにキリストを通して犠牲を払われた。「神はキリストにおいて世をご自分に和解させ」られた(コリント第二5:19)。……

神の愛は、あわれみのうちにばかりでなく義のうちにもあらわされた。義は神のみ座の基礎であり、神の愛の実である。あわれみを真実と義から引き離そうとするのがサタンの意図であった。彼は神の律法の義が平和の敵であることを証明しようと努力した。しかしキリストは、神のご計画のうちにあってこの両者は離すことができないほど密接に結合しており、一方がなければ他方は存在し得ないことを示しておられる。「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけ」する(詩篇 85:10)。

キリストは、ご自分の一生と死によって、神の義はそのあわれみを滅ぼすものではなく、罪がゆるされ、律法が正しく完全に従うことのできるものであることを証明された。サタンの非難の誤りは明らかにされた。(各時代の希望下巻 288, 289)

キリストの恵みと神の律法は分けることができない。あわれみと真理はイエスのうちで共に会った。……このお方は神をあらわす方であり、人類の模範であられた。人間が信仰によって神と結びつくとき、どのような者になることができるかを世に示された。神のひとり子は人の性質を身に受け、その十字架を地と天の間に打ち立てられた。十字架によって、人は神に引き寄せられ、神は人に引き寄せられる。義はその高く恐るべき立場から動き、神聖なる軍隊、天の万軍は敬神の念をもって頭をたれつつ、十字架に近く引き寄せられる。なぜなら、義は十字架で満足するからである。罪人は十字架によって罪の拠点から、悪の同盟から連れ戻され、十字架へ近づくごとに彼の心は和らぎ、悔い改めのうちに「神の御子を十字架につけたのはわたしの罪でした」と叫ぶ。彼は十字架のもとに自分の罪を置き、キリストの恵みによって彼の品性は変えられる。(セレクテッド・メッセージ1巻349)

3月8日 恵みの御座

## 命と力の泉

「またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、『御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように』。」(黙示録5:13)

神はその従順な子らがご自分の祝福を求め、讃美と感謝をもってその御前に来ることを望んでおられる。神は命と力の泉であられる。……このお方はその選民のために、どの心にも感謝を抱かせることをしてくださったので、讃美がほとんど捧げられないと悲しまれる。このお方は、ご自分の民が自分たちに喜び楽しむ理由があるのを知っていることを示し、もっと強い表現があることを望まれる。

神がご自分の民を取り扱われる方法は、しばしば繰り返し語らなければならない。古代イスラエルの取り扱いにおいて、どれほどしばしば主によって道しるべが設置されたことであろうか。彼らが、過去の歴史を忘れることがないように、主はこれらのできごとを歌にし、親がそれらを子供たちに教えることのできるようにするよう、モーセにお命じになった。……なぜなら、主は当時のその民のために奇跡を行う神として働かれたからである。神のみ事業の過去の歴史は、老いも若きも共に民の前に、しばしば提起する必要がある。わたしたちは度々神の慈しみを数えなおし、その驚くべきみ業のためにこのお方を讃美する必要がある。……

地上の神の教会は天にある神の教会と一つである。地上の信者と堕落したことのない天の存在者は一つの教会を構成している。どの知的存在者も地上で神を礼拝するために集まる聖徒の集会に関心をもっている。天の内庭で彼らは、地上の外庭でキリストために証をするのを聞き、地上の礼拝者からの讃美と感謝は、天の讃美に受け入れられ、キリストがアダムの堕落した子らのために無駄に死なれたのではなかったがゆえに、讃美と喜びの音が天の宮廷中に響き渡る。天使たちが泉の源から飲む一方で、地上の聖徒らは神の都を喜ばせる川、御座から流れ出る清い流れの水を飲む。ああ、わたしたちすべての者が、天が地に近いことに気づくことができると良いのに!……地上の聖徒のどの集会にも、証、讃美、祈りを聞いている神の天使たちがいる。わたしたちの讃美は上なる天軍の聖歌隊に補われていることを覚えていよう。(教会への証6巻364~367)

恵みの御座 3月9日

## 礼拝の中心

「わたしはあなたの聖なる宮にむかって伏し拝み、あなたのいつくしみと、まこととのゆえに、み名に感謝します。あなたはそのみ名と、み言葉をすべてのものにまさって高くされたからです。」(詩篇 138:2)

わたしたちの宗教の輝かしく楽しい面は、日々神に捧げているすべての者によってあらわされる。……わたしたちは自分の経験における暗い章ではなく、神の大いなるあわれみと常に変わらない愛のあらわれを回想する間は、不満を言うどころか讃美する。わたしたちは神の愛情に満ちた忠実さを、誠実で優しくあわれみ深いこのお方の群れの羊飼いとして語るのである。神はこの群れを御手から奪うものはないと言われた。その心の言葉は利己的なつぶやきや愚痴ではない。澄んだ流れのような讃美は神の真に信じる者から出てくる。……

天では神の宮が開かれている。そして、神を愛し、その戒めを守るすべての教会のための神の栄光がほとばしり出ている。わたしたちは研究し、瞑想し、祈る必要がある。そのとき、わたしたちは天上の宮の内庭を識別するための霊的な視力を持つ。わたしたちは御座を取り巻いている天の聖歌隊の讃美と感謝の主題をとらえる。シオンが起きて輝くとき、その光は最も奥にまで差し込み、讃美と感謝の尊い歌が、聖徒の集会で聞かれる。ささいな失望と困難についてのつぶやきと不満は止む。……わたしたちは、ご自身の功績の香を捧げておられる自分たちの仲保者をわたしたちは見る。……

神は、わたしたちが完全な愛の属性を培うためにこのお方の家に集まらなければならないとお教えになる。これは地の住民を、キリストがご自分を愛するすべての者のために用意しに行かれた住居にふさわしくする。そこで彼らは安息日ごと、新月ごとに、最も高尚な歌の調べのうちに、すなわち御座についておられるお方と小羊への世々限りない讃美と感謝するために、聖所に集うのである。(教会への証6巻365~368)

わたしたちの神、天地の創造主は、「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」と宣言なさる (詩篇 50:23)。全天は、神を讃美して一致する。今、天使たちの歌を学び、彼らの輝く隊列に加わるときにそれを歌えるようにしよう。詩篇記者と共に、「わたしは生けるかぎりは主をほめたたえ、ながらえる間は、わが神をほめうたおう」と言おう (詩篇 146:2)。(教会への証 5 巻 318, 319)

3月10日 恵みの御座

## 同情と憐れみの源

「神から賜わったあなたの位は永遠にかぎりなく続き、あなたの王のつえは公平のつえである。」(詩篇 45:6)

いまイエスは、神のみもとにのぼって、神と共に宇宙の王座についておられるが、その慈悲深いご性質をすこしも失ってはおられない。今日も同じように、やさしい同情に満ちたイエスの心は、人類のすべての苦悩に向かって開かれている。刺されたみ手は、世にあるご自分の民をもっと豊かに祝福するためにきょうもさし出されている。……

われわれには、どんな試練のときにも、決してわれわれを裏切られることのない助け主がある。主は、われわれが誘惑に抵抗し、悪と戦い、ついには重荷と悲しみにおしつぶされてしまうがままに、放っておかれない。いまは、イエスは人間の目からかくされているが、信仰の耳は、イエスのみ声が、「恐れるには及ばない、わたしがあなたといっしょにいるのだ」と言われるのを聞くことができる。「(わたしは)また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である」(黙示録 1:18)。(各時代の希望中巻 280)

自分たちの心から悪を捨て去り、神への熱心な嘆願のうちに自分たちの手を伸ばす人々は、神だけが彼らにお与えになることのできる助けを得る。贖い代は人間の魂のために支払われた。それは、彼らが罪の奴隷状態から逃れて、許しと純潔と天をわがものとする機会を得るためである。……しばしば恵みの御座へ行き、神の知恵と力を求めて、真心からの熱心な嘆願を捧げる人々は、活発で有益なキリストの僕とならずにはいられない。彼らに偉大なタラントはないかもしれないが、心のへりくだりとイエスに固くより頼むことによって、魂をキリストに導く良き働きをなすことができる。……

幾千もの人々が、神とその特性について誤った観念を持っている。……神は 真理の神であられる。正義と憐れみがこのお方のみ座の特性である。このお方 は愛の神、あわれみと優しい同情の神であられる。このようにこのお方は、わた したちの救い主なる御子のうちに表されている。このお方は忍耐と寛容の神であ られる。もしこのようなお方がわたしたちの崇敬し、同化しようと求めているご品 性を持つお方であれば、わたしたちは真の神を礼拝しているのである。

もしわたしたちがキリストに従っているならば、このお方の功績がわたしたちに与えられ、芳しい香として、御父の前に立ちのぼる。そしてわたしたちの救い主のご品性の恵みが、わたしたちの心のうちに植えつけられ、わたしたちの周囲に尊い香りをふりまくのである。(教会への証5巻173,174)

恵みの御座 3月11日

## 同情深い大祭司

「あなたがわたしの正しい訴えを助け守られたからです。あなたはみくらに座して、 正しいさばきをされました。」(詩篇 9:4)

わたしたちは神の偉大さと権威を理解もしなければ、創造主とそのみ手によって造られた被造物の間の測り知れない隔たりを覚えてもいない。天に座し、宇宙の笏(しゃく)を揺り動かしておられるお方はわたしたちの有限な基準で判断なさらず、わたしたちの計算でお考えになることもない。もしわたしたちが、自分にとって偉大なことは神にとっても偉大で、自分にとって小さいことはそのお方にとっても小さいことに違いないと考えるなら、わたしたちは間違っている。……

どの罪も神の御目に小さくはない。人が小さいことだと思いたがる罪は、まさに神が大きな犯罪だと見なされるものかもしれない。よっぱらいは軽蔑され、彼の罪は彼を天から追放すると言われるが、その一方で、自尊心、利己心、貪欲は譴責されない。しかし、これこそ、神にとって特に不快な罪である。……わたしたちは罪を主の基準で計ることができるように、はっきりとした識別力が必要である。(教会への証 5 巻 337)

今、猶予期間が長引いている間に、他人に判決を下して、自分自身を模範的な人と見なすようなことがあってはならない。キリストがわたしたちの模範である。このお方を模倣し、そのみ足の跡にあなたの足を置きなさい。あなたは公然と現代の真理のどの点も信じると公言することはできるが、あなたがこれらの真理を実践するまではあなたにとって何の役にも立たない。わたしたちは他の人々を咎めるべきではなく、それはわたしたちの仕事ではない。わたしたちは互いに愛し合い互いのために祈るべきである。わたしたちは人が真理から逸脱するのを見るとき、キリストがエルサレムのために泣かれたように彼のために泣くことができる。わたしたちの天父がそのみ言葉の中で過ちを犯している者について言われること、「もしある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい」を見よう(ガラテヤ 6:1)。……

イエスは地上に他にだれも居ないかのように一人びとりを心にかけておられる。このお方は神格としてわたしたちのために強大な力を働かせておられる一方、長兄としてわたしたちの苦悩をことごとく同情して下さる。天の至高者はご自身を堕落した罪深い人類から遠ざけることをなさらない。わたしたちには、わたしたちに気づくことができず、同情することができないほど非常に高く、非常に高められている大祭司はおられない。そうではなくすべての点においてわたしたちと同じように誘惑されたが、罪は犯されなかった方がおられるのである。(同上345~347)

3月12日 恵みの御座

#### キリストは御父の御座にあずかっておられる

「主はわが主に言われる、『わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ』と。」(詩篇 110:1)

堕落した人類に対する御父の愛は、測りがたく、言いつくせず、比類がない。この愛のゆえに、御父は反逆的な人間が天の統治との調和に引きもどされ、その不法の刑罰から救われることができるために、ご自分のひとり子が死ぬことに同意されたのである。神の御子は、ご自分の王座から下りて来られ、ご自分の貧しさを通してわたしたちが富む者となれるように、わたしたちのために貧しくなられた。このお方はわたしたちが永遠の喜びにあずかる者となれるように、悲しみの人」となられた。……神は恵みとまこととに満ちているご自分の愛する御子が、言いつくせいない栄光の世界から、罪に損なわれ、傷つき、死とのろいの陰で暗くなった世に来られることをお許しになった。(レビュー・アンド・ヘブルド 1888 年 2 月 28 日)

イエスがわれわれとともに住むためにおいでになったので、われわれは、神がわれわれの試練をよく知り、われわれの悲しみに同情してくださるということがわかる。アダムのむすこ娘はみな創造主が罪人の友であることをさとることができる。なぜなら、救い主の地上生活にあらわされた恵みの教理の一つ一つに、よろこびの約束の一つ一つに、愛の行為の一つ一つに、きよい美しさの一つ一つに、われわれは「神がわれらとともにいます」ことをみとめるからである(マタイ1:23)。……

キリストはご自分の人性によって人類に接し、ご自分の神性によって神のみ座をとらえておられる。人の子としてイエスは服従の模範をわれわれに示された。神のみ子としてイエスは服従する力をわれわれに与えてくださる。……。ベッレへムの柔和で心のへりくだった救い主は、「肉において現れ」た神である。(テモテ第一3:16)。……「神われらと共にいます」ということばは、われわれが罪から救われることについての保証であり、われわれが天の律法に従う力についての保証である。……

救い主は、われわれの性質をおとりになることによって、決してたちきれることのないきずなでご自分を人類にむすびつけられた。永遠にわたって、キリストはわれわれとつながっておられる。……「ひとりのみどり子がわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。……」(イザヤ書 9:6)。神はみ子自身のうちに人間の性質をとり入れ、これを一番高い天にまで持ちつづけさせられた。神とともに宇宙のみ座を占めておられるのは「人の子」である。……キリストのうちに、天の家族と地の家族が一つにむすばれている。栄光をお受けになったキリストは、われわれの兄弟である。天は人間のうちに宿り、人間は限りない愛の神の胸にいだかれている。(各時代の希望上巻 7~12)

恵みの御座 3月13日

#### 神の律法はこのお方の御座に結びついている

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」 (詩篇 119:18)

神は人間に、ご自分の品性の量りとしてご自分の聖なる律法をお与えになった。この律法によって、あなたは自分の品性にあるすべての欠点を認め、克服することができる。あなたは自らをすべての偶像から切り離し、恵みと真理の黄金の鎖によって、神の御座に自分自身を結びつけることができる。(セレクテッド・メッセージ2巻318)

道徳律は、決して型や影ではなかった。それは人間の創造以前から存在し、神の御座が続く限り存続するのである。神は人間を救うためにご自分の律法の規則を一つでも変えることはできなかった。なぜなら、律法は神の統治の基礎だからである。それは不変のものであり、変更不可能のものであり、無限であり、永遠である。人間が救われ、また律法の誉れが維持されるためには、神の御子がご自身を罪のための犠牲としてお捧げになる必要があった。罪を知らないお方がわたしたちのために罪とされた。このお方はわたしたちのためにカルバリーで死なれた。このお方の死は、人を愛する神の驚くべき愛と、このお方の律法の不変性を示している……

キリストの栄光は、そのご品性の写しである律法の中に明らかにされており、このお方の変える力は、人がこのお方のみかたちに変えられるまで、魂に感じられる。彼らは神性にあずかる者とされ、ますます自分たちの救い主に似た者へ成長し、一歩一歩神のみ旨への一致に前進し、ついに完全に至る。(セレクテッド・メッセージ1巻239,240)

神の律法はユダヤ人のためだけに与えられたのではなかった。それは世界的なものであり、永久的な義務である。……その十の規則は、ちょうど十の輪がある鎖のようなものである。もし一つが壊れると、鎖の意味はない。違反者を救うために、たったひとつの規則でも無効にしたり、変えたりすることはできない。(パイプル・コメンクリ [E.G. ホワイトコメント] 2巻1014)

キリストは、天の秩序、天の統治制度、天のきよい調和を、地上のご自分の教会の中であらわすように意図しておられる。このようにして、キリストはご自分の民によって栄光を受けられるのである。彼らを通して義の太陽はくもりのない光輝をもって世を照らすのである。……キリストの義をさずけられている教会は、キリストの宝庫であって、そこではキリストのあわれみ、恵み、愛という富が十分にあますところなくあらわされる。キリストは、ご自分の屈辱の報い、またご自分の栄光を補足するものとして、ご自分の民の純潔と完全をごらんになる。キリストは、大いなる中心であって、そこからすべての栄光が放射される。(各時代の希望下巻171)

3月14日 恵みの御座

#### 誘惑に抵抗するときの助け

「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者 たちをためすために、全世界に臨もうとしている試錬の時に、あなたを防ぎ守ろう。」 (黙示録 3:10)

全天は、この世界で行われている働き、男女を将来の不死の命のために準備する働きに関心をもっている。人間の代理人が魂の救いにおいてイエス・キリストと共に働く共労者として役割を果たす高い栄誉を得ることが、神のご計画である。……彼らは神の働きを尊く神聖なものとみなし、神に日々喜びと感謝の捧げ物をささげ、それと引き換えに聖なる生活において前進できるためにこのお方の恵みの力をいただくのである。……

だれもサタンの誘惑に屈して、自分の良心を犯し、聖霊を悲しませる必要はない。 すべての備えは神のみ言葉の中になされていて、それによってすべての人が勝利するための自分たちの努力に神聖な助けを得ることができる。(教会への証 5 巻 573, 574)

最終的に勝利を得る一人びとりの魂の宗教的な生活において、恐るべき混乱と試練の光景がある。しかし、聖句についての彼の知識によって、彼は神の励ましの約束を思いだすことができる。それは、彼の心に慰めをもたらし、力強いお方の力を信じる彼の信仰を強める。彼は……「あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう」と書いてあるのを読む(ペテロ第一1:7)。信仰の試練は、金よりも尊い。すべての人は、これがキリストの学校の訓練の一部であり、地上の性質というかすを取り除いて清め、精錬するために不可欠であることを学ぶべきである。……

全力をあげて、下にあるあなたの困難ではなく、上を見上げなさい。そうすれば、あなたは決して途中で弱り果てることがない。あなたはまもなく雲の彼方に、イエスがあなたを助けるために手を差し伸べておられるのを見る。そしてあなたがなすべきことはただ単純な信仰のうちに自分の手をこのお方に預け、このお方に導いていただくことである。……人々の間の偉人の名は、砂に書かれた文字のようであるが、しみのない品性は、永遠にわたって残る。神はあなたに知性と理性的な思いを与えておられる。それによって、あなたがご自分の約束をつかむことができるためである。そしてイエスはいつでも、あなたが強く均整のとれた品性を形成するのを助けて下さる。(同上 578, 579)

恵みの御座 3月15日

#### どこで罪が消し去られるか

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。」(イザヤ43:25)

ある人々は、自分たちは試験されているのであって、自分たちが回復されたことを主に証明しなければ祝福をわがものと主張することはできないと考えている。しかし、今すぐにでも、神の祝福を求めることができる。神の恵み、キリストの霊を受けて自分の弱さを補うのでなければ、悪に抵抗することはできない。イエスはわたしたちが罪深く、無力で、依存したありのままの状態でみ許に行くことを喜ばれる。わたしたちは自分たちの弱さ、愚かさ、罪深さをそのまま持って、悔い改めのうちにみ足の許へ伏すことができる。わたしたちをご自分の愛のみ腕でかこみ、わたしたちの傷をいやし、すべての不純から清めて下さるのは、このお方の栄光である。

ここで何千もの人々が失敗する。彼らはイエスが彼らを個人的に、一人びとりを許して下さることを信じない。彼らは神をそのみ言葉通りに信じない。だれでも条件を満たす人にとって、許しが一つ一つの罪に価なく与えられることを自分自身で知ることは特権である。神のみ約束は自分のためではないという疑いを捨てなさい。それらは悔い改める一人びとりの違反者のためである。力と恵みは、キリストを通して備えられ、奉仕する御使たちによってすべての信じる魂に与えられる。どんなに罪深くても、罪人のために死なれたイエスのうちに力と純潔と義を見出すことができない人はいない。このお方は罪に染み汚れた彼らの衣を脱がせ、義の白い衣を着せようと待っておられる。このお方は彼らに生きよ、死んではならないとお命じになる。……

あなたは、目の前に聖書の豊かな約束がありながら、疑いの余地を残すのであろうか。哀れな罪人が戻りたいと切望し、自分の罪を捨てたいと切望しているときに、主は厳格に彼が悔い改めてご自分の足元へ来るのを拒まれると思うのであろうか。そんな考えは捨てなさい!わたしたちの天父についてそのような考えをいだくことほど、あなた自身の魂を傷つけるものは他にない。このお方は罪を憎まれるが、罪人を愛されるのである。……あなたがみ約束を読むとき、それらは言いつくせない愛と憐れみの表現であることを覚えていなさい。無限の愛の大いなる心は、尽きぬ憐れみをもって罪人に引きつけられている。……このお方はご自分の道徳的なみかたちを人のうちに回復しようと望んでおられる。あなたが告白と悔い改めをもってこのお方に近づくとき、このお方は憐れみと許しをもってあなたに近づいて下さる。(キリストへの道 67 ~ 72)

3月16日 恵みの御座

#### どこで、わたしたちは罪からの救出を見出すか

「神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。」(コロサイ1:13, 14)

天の君は、人間を高められた地位において下さった。彼の命は、カルバリーの十字架の価をもって量られた。……罪の堕落の深みから、わたしたちは高められてキリストと共に相続人、神の子、そしていと高きお方の王また祭司になることができる。……

キリストがバプテスマの後、ヨルダン川のほとりで頭を垂れておられたときに、 天が開け、輝く金のように、はとのかたちをした御霊が下って、その栄光でこの お方を囲んだ。そして最も高い天から神のみ声が、「これはわたしの愛する子、 わたしの心にかなう者である」と言われるのが聞こえた(マタイ 3:17)。人のため のキリストの祈りは天の門を開き、御父は答えて、堕落した人類のための嘆願を お受入れになった。イエスは、わたしたちの身代わりまた保証人として祈られ、 今や人類家族は非常に愛された神の御子の功績を通して、御父への道を見出す ことができる。……イエスは「道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14:6)。 天の門は開かれたままであり、神の御座からの輝きは、このお方を愛する人々の 心の中を照らす。(レビュー・アンド・ヘブルド 1888 年 2 月 28 日)

ヨルダン川で、イエスに言われたことばは、……全人類を含んでいる。神はわれわれの代表者としてのイエスに語られた。どんなに罪や欠点をもっていても、われわれは無価値なものとして捨てられることはない。……キリストの上にくだった栄光は、われわれに対する神の愛の保証である。それは祈りの力について、すなわち人間の声が神の御耳にとどくことと、われわれの祈願が天の宮廷に受け入れられることとを告げている。罪によって、地は天から切り離され、天とのまじわりから遠ざけられた。だがイエスは地をもう一度栄光の天とむすびつけられた。イエスの愛は人類をとりまき、最高の天に達した。開かれた門から救い主の頭上にさした光が、試みに抵抗するために助けを祈るとき、われわれの上にさすのである。イエスに語られたみ声が、信じているひとりびとりにむかって「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」と言われるのである。……われらのあがない主が道をお開きになったので、どんなに罪深い者も、どんなに困っている者も、……天父に近づくことができる。(各時代の希望上巻118,119)

恵みの御座 3月17日

#### すべての人が近づくことができる

「この主キリストにあって、わたしたちは、彼に対する信仰によって、確信をもって大胆に神に近づくことができるのである。」(エペソ 3:12)

真心から、心の聖潔と生活の純潔を求めている多くの人々が、困惑し、失望しているようである。……闇と失望がときに魂に臨み、わたしたちを圧倒しようと脅かすであろうが、わたしたちは自分たちの確信を捨てるべきではない。したいと思っても思わなくても、目をイエスにとどめていなければならない。わたしたちはわかっている義務を一つ一つ忠実に果たすよう努め、それから静かに神のみ約束のうちに安んじるべきである。

ときどき自分の無価値さを深く自覚し、魂全体がふるえおののくことであろう。 しかし、それは神がわたしたちに対して、あるいはわたしたちが神に対して変わっ たという証拠なのではない。なにか激しい感情を得るために思いを引き締めよう と努力してはならない。わたしたちは昨日感じた平安と喜びを、今日は感じないか もしれない。しかし、信仰によって、キリストのみ手をつかみ、光のうちに入ると きとまったく同様に闇のうちにあってもこのお方に信頼すべきである。

サタンは次のようにささやくであろう、「あなたはあまりにもはなはだしい罪人であり、 キリストが救うことはおできにならない」。あなたは、自分が本当に罪深く無価値であることを認める一方で、誘惑者に対して次の叫びをもって応じることができる、「贖罪の徳によって、わたしは自分の救い主としてキリストがわたしのものであることを主張する。わたしは自分自身の功績ではなく、わたしを清めるイエスの尊い血潮に信頼する。今この瞬間、わたしは自分の無力な魂をキリストにおゆだねする」。……

あなたの心がかたくなに見えても失望してはならない。一つ一つの障害、一つ一つの内なる敵は、ただあなたのキリストの必要を増すだけである。このお方は石の心を取り除いて、あなたに肉の心を与えるために来て下さる。あなたの特別な欠点に勝利するために特別な恵みを求めて、このお方を見なさい。誘惑に攻撃されるとき、断固として悪を誘発するものに抵抗しなさい。……すべての偶像を犠牲にし、すべての大事にしている罪を捨てるための助けを求めて、愛する救い主に叫びなさい。信仰の目で、御父の御座の前に立って、あなたのために嘆願しながら、ご自分の傷ついたみ手を示しておられるイエスを見なさい。あなたの尊い救い主を通して、あなたに力がもたらされることを信じなさい。……

もしもっと自分たちの思いがキリストと天国を考えるようにするなら、わたしたちは主の闘いを戦うときに、力強い励みと支えを見出すはずである。……キリストの麗しさを他にして、すべての地上の魅力はほとんど価値なく見えるようになる。 (清められた生涯  $89\sim91$ )

3月18日 恵みの御座

#### わたしたちの合言葉であるキリストのみ名

「わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄 光をお受けになるためである。」(ヨハネ 14:13)

キリストを通して、わたしたちは恵みの御座に自分たちの嘆願をなすことができる。このお方を通して、わたしたちは無価値なまま、すべての霊的な祝福を得ることができる。(教会への証5巻221)

創造主に、あなたの求めを申し上げなさい。砕けた心をもって、神に来るものは、だれ一人しりぞけられることはない。心からの祈りは、決して消えてしまうものではない。天の聖歌隊の賛美を受けておられる神は、弱々しい人間の叫びをも聞かれる。わたしたちが、へやの中で心の願いを申し上げたり、あるいは、道を歩きながら祈ったりすると、そのことばは宇宙の王のみ座にまで達する。それはだれの耳にも聞こえないであろうが、消え去ってしまったり、忙しい仕事に取りまぎれて、なくなったりしない。何も、人の心の願いを消し去ることはできない。祈りは街頭の騒音や群衆の混雑をこえて、天の宮廷へと上っていく。わたしたちが語りかけているのは、神である。そして、神は、わたしたちの祈りを聞かれるのである。(キリストの実物教訓 155)

「わたしの名によって求めなさい」とキリストは言われる。……キリストは神と人の間をつなぐ輪であられる。このお方はご自分が個人的にとりなすことを約束された。このお方は嘆願者の側にご自分の義の徳全体をおいて下さる。このお方は人のために嘆願し、人は神聖な助けを必要としているため、世の命のためにご自身の命を捧げられたお方の感化力を用いて神のみ前で自分自身のために嘆願するのである。わたしたちが神のみ前に、キリストの功績を感謝していることを認めるとき、香がわたしたちのとりなしに与えられる。わたしたちが贖い主の功績の徳を通して近づくとき、キリストはわたしたちをご自分のそば近くにおき、ご自分の人性のみ腕でわたしたちを囲み、ご自分の神性のみ腕で無限のお方の御座をつかまれる。……

しかり、キリストは人と神の間の祈りの媒介となって下さった。このお方はまた神と 人の間の祝福の媒介となって下さった。このお方は神性と人性を結合なさった。……

祈りなさい、しかり、揺るがない信仰と信頼をもって祈りなさい。契約の御使、 すなわち主なるイエス・キリストは、ご自分を信じる人々の祈りが受け入れられる ことを保証する仲保者であられる。(教会への証8巻178,179) 恵みの御座 3月19日

## 芳しい香りのような祈り

「また、別の御使が出てきて、金の香炉を手に持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。」(黙示録 8:3)

真の祈りは、全能者をつかみ、わたしたちに勝利を与える。ひざをかがめて、 クリスチャンは誘惑に抵抗する力を得る。……静かで熱心な魂の祈りは、聖なる 香のように恵みの御座に立ち上り、聖所で捧げられたかのように神に受け入れら れる。このようにご自分を求めるすべての人にとって、キリストは必要な時のいと 近き助けとなられる。彼らは試練の日に強いのである。(教会への証4巻616)

この生涯において、コルネリオのように神に推奨されるとは、どの人にとってもすばらしい恩寵である。そして、この承認の根拠は何であっただろうか。「あなたの祈や施しは神のみ前にとどいて、おぼえられている」(使徒行伝 10:4)。

祈りも施しもそれ自体に、罪人を神に推奨する徳をもっているのではない。キリストの恵み、このお方の贖罪の犠牲を通してのみ、心が新たにされ、わたしたちの奉仕が神に受け入れられるものとなるのである。この恵みはコルネリオの心に働きかけた。キリストの御霊が彼の魂に語りかけた。イエスが彼を引きつけられ、彼はその力に屈服した。彼の祈りと施しは、彼に強く促されたものでも、訓告されたものでもなかった。それらは天国を得るために払おうとしていた代価ではなかった。そうではなく、それらは神の愛と感謝の実であった。

このような真心からの祈りは主のみ前に香のように上る。そしてこのお方のみ事業への捧げ物や、貧しい人や苦しむ人への贈り物は、このお方に喜ばれる犠牲である。……

祈りと施しは共に密接に関連している。それは神への、また同胞への愛の表現である。それらは神聖な律法の二大原則の現れである。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。そして、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」(マルコ12:30,31)。このように、わたしたちの捧げ物は、わたしたちを神に推奨したり、このお方の恩寵を得させたりすることはできないが、それらはわたしたちがキリストの恵みを受けた証拠なのである。それらはわたしたちの愛の告白が真心からのものであることを試す試金石である。(パイプル・コメンクリ [E.G. ホワイトコメント] 6巻1059)

3月20日 恵みの御座

#### あなたの事情を訴えなさい

「わたしは彼らのそむきをいやし、喜んでこれを愛する。」(ホセヤ 14:4)

わたしはだれ一人として、罪の告白によって神の恩寵を得ていると思ったり、 人間に告白することに特別な徳があると思ったりしないようにと願う。……主はわ たしたちが日々自分たちの問題や罪の告白をもってみ許へ来て、ご自分が休息を 与えることを望んでおられる。……

あなたのひそかな罪をただ神のみ前に告白しなさい。あなたの事情をどのように扱うべきか完璧にご存じのお方に、自分の心が迷い出ていたことを認めなさい。もしあなたが隣人に悪をなしたなら、あなたの罪を認め、弁償することによってその実を示しなさい。それから、祝福を求めなさい。ありのまま神のみ許へ行き、このお方にあなたのすべての弱さを癒していただきなさい。あなたの事情を恵みの御座に訴えなさい。その働きは徹底的になさい。神と自分自身の魂を取り扱う際に、誠実でありなさい。もしあなたが真に悔い改めた心をもってこのお方のみ許へ来るなら、このお方はあなたに勝利を与えて下さる。……このお方はあなたを誤解したり、誤って判断したりはなさらない。

あなたの同胞は、あなたを罪から解放したり、悪から清めたりすることはできない。イエスだけがあなたに平安を与えることのおできになるお方である。このお方はあなたを愛し、あなたのためにご自身をお与えになった。このお方の大きな愛の心は、「わたしたちの弱さを思いやること」ができる(ヘブル 4:15)。いったいこのお方が許すことのできないほど大きな罪があろうか。このお方が救うことができないほど暗く、罪に押しつぶされた魂があろうか。このお方は恵み深く、わたしたちのうちに功績を求めずに、かえってわたしたちがまだ罪人であるときに、ご自身の無限のいつくしみによって、わたしたちの背信を癒し、惜しみなくわたしたちを愛して下さるのである。このお方ば怒ることおそく、いつくしみ豊かにましま」す(ネヘミヤ 9:17)。(教会への証 5 巻 648, 649)

罪に病んだ魂に治療法がある。その治療法はイエスのうちにある。尊い救い主!このお方の恵みは最も弱い者のために十分である。そして最も強い者もまたこのお方の恵みがなければ、滅びるのである。

わたしはどのようにしてこの恵みを得ることができるかを見た。あなたの密室へ行き、神とだけになって嘆願しなさい。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」(詩篇 51:10)。熱心に、真剣になりなさい。熱烈な祈りは多くを成し遂げる。ヤコブのように、祈りのうちに格闘しなさい。身を悩ませなさい。園でイエスは大つぶの血の汗を流された。あなたは努力しなければならない。神のうちに強くなったことを感じるまで、あなたの密室を出てはならない。それから、見張りなさい。そして目を覚まして祈っている限り、あなたはこれらの邪悪なからみつく罪を制することができる。神の恵みは、あなたのうちに現れることができるし、また現れるのである。(霊的賜物 2 巻 257)

恵みの御座 3月21日

#### エリヤの模範

「エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。」(ヤコブ 5:17, 18)

カルメル山で「エリヤ」が雨を求めて祈りをささげたとき(列王記上18:41~ 45)、彼の信仰は試されたが、彼は辛抱強く自分の要求を神に知らせ続けた。六 回彼は真剣に祈ったが、願いが聞かれるというしるしは何もなかった。しかし、 強い信仰をもって、彼は恵みの御座に嘆願を訴えた。彼が六回目で失望のうちに あきらめていたら、彼の祈りは聞かれなかったのである。しかし、彼は答えがある まで辛抱強く続けた。わたしたちには、嘆願に耳をふさいではおられない神がお られる。そしてもしわたしたちがこのお方のみ言葉を試すなら、わたしたちの信仰 を尊んで下さる。このお方はわたしたちのすべての関心がご自分の関心に織り込ま れることを望んでおられる。そのとき、このお方は安心してわたしたちを祝福する ことがおできになる。なぜなら、祝福が自分たちのものになったときに、栄光を自 分に帰すことがなく、すべての讃美を神に帰するからである。神はいつもわたした ちが呼び求めた最初の時に、祈りに答えて下さるとは限らない。なぜなら、そうす ると、自分たちに与えられた祝福と恩寵をみな受ける資格があると思うかもしれな いからである。わたしたちが心に抱いている悪がないか、何か罪にふけってはいな いかを調べるために自分たちの心を探る代わりに、わたしたちは不注意になり、自 分たちが神に依存していること、またこのお方の助けを必要としていることを認め ないかもしれない。(バイブル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント] 1034, 1035)

僕はエリヤが祈っている間見張っていた。六回彼は見張りから戻って来て言った、何もありません、雲一つ、雨のしるし一つもありません。しかし、預言者は失望のうちにあきらめなかった。……彼が自分の心を探るにつれ、自分自身の目にも、神の御目にも、自分がますますなくなっていくようであった。……そして彼が自分の唯一の力と義として、救い主により頼みながら、自己を放棄する点にまで至ったとき、答えがもたらされた。僕が現れて言った、「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」(同上 1035)

エリヤは空が暗くなるまで待たなかった。彼は信仰によって、その小さな雲のなかにあふるるばかりの雨を見た。そして彼は、その信仰に従って行動した。……このような信仰、すなわち、神のみ言葉の約束をつかんで、天の神がお聞きになるまで、どんなことがあっても手を離さない信仰が、今日世界に必要である。(国と指導者上巻 124, 125)

3月22日 恵みの御座

## 悩みにあうとき

「彼は悩みにあうに及んで、その神、主に願い求め、その先祖の神の前に大いに身を低くして」(歴代志下 33:12)

「あなたがたは、この世ではなやみがある」(ヨハネ 16:33)、とキリストは言われる。しかし、わたしのうちに、あなたがたには平安がある。悲しみや逆境、また非難は、麦からもみがらを分けるために神がお定めになった手段である。わたしたちの誇り、利己心、悪感情、世的な楽しみへの愛着はみな克服しなければならない。であるから、神はわたしたちをテストし、試すために苦しみを与え、わたしたちの品性にこれらの悪が存在していることをわたしたちに示される。わたしたちは世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるため、このお方の強さと恵みを通して勝利しなければならない。「このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」とパウロは言っている(コリント第二 4:17, 18)。苦しみ、十字架、誘惑、逆境、そしてわたしたちの様々な試練は、わたしたちを精錬し、聖化し、天の倉にふさわしい者とするための神の職人である。(教会への証 3 巻 115)

あなたがたの苦しみの多くは、あなたをもっと恵みの御座に近づけるために、神の知恵のうちにもたらされている。このお方はご自分の子らを悲しみや試練によってやわらげ、征服される。この世は、神の作業場であり、ここで、このお方は天の宮廷のためにわたしたちを形づくられる。このお方は、荒いところやふぞろいなところが取り除かれ、天の建物におけるわたしたちの場所にふさわしくなるまで、震える心にかんなをあてられる。苦難と悩みを通して、クリスチャンは精錬され、強められて、キリストの与えて下さった型に従って品性を発達させるのである。(教会への証4巻143)

わたしたちに嘆かわしいほど痛みを与える苦しみが、有益な教訓となり、わたしたちにキリストにある高い召しの賞与を目指して押し進むことを教えなければならない。主がまもなく来られるという思いによって励ましを受けよう。この希望がわたしたちの心を喜ばせるようにしよう。(教会への証9巻287)

恵みの御座 3月23日

#### キリストの苦しみにあずかる

「むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一4:13)

力を得るためには、運動しなければならない。強い信仰をもつためには、わたしたちの信仰を働かせるような状況におかれなければならない。……わたしたちが神の王国に入るのは、多くの苦難を通してである。わたしたちの救い主は、あらゆる方法で試練を受けられたが、神のうちにつねに勝利なさった。あらゆる状況下で神の力のうちに強くなり、キリストの十字架のうちに栄光を帰すのは、わたしたちの特権である。(教会への証3巻67)

この世の生涯において、わたしたちは火のような試練にあい、高価な犠牲を払わなければならないが、キリストの平安が報いである。これまであまりにも自己否定とキリストのための苦しみがなく、十字架がほとんど完全に忘れ去られたかのようである。わたしたちは勝利のうちにキリストと共に御座につきたいのであれば、このお方の苦しみにあずかる者とならなければならない。(教会への証 5 巻 215)

天国は、義のために苦しむ者のそば近くにある。キリストはその忠実な民と利害を一つにされる。キリストは彼の聖徒が苦しむときに苦しまれる。そして彼の選民に触れる者は、だれでもキリストに触れるのである。肉体的危害や苦難から救うためにそば近くにある力は、またさらに大いなる悪から救うためにそば近くにあって、神のしもべに、どんな状況のもとにあってもその誠実さを堅持する力を与えて、神の恵みによって勝利することを可能にするのである。(国と指導者下巻155)

こうして迫害は、キリストの弟子にとっては、悲しみをひきおこすどころか、かえって喜びとなるはずである。なぜならそれは、彼らが主の足跡に従っている証拠だからである。

主はご自分の民が試練をまぬかれるという約束はなさらなかったが、はるかに良いものを約束された。主は「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」と言われた(申命記 33:25)。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」(コリント第二 12:9)。もしあなたが主のために火の燃える炉を通るように召されるならば、イエスはバビロンの忠実な三人の青年たちと共におられたように、あなたのかたわらにおられる。贖い主を愛する者は、主とともに屈辱とそしりに会う機会があるたびに喜ぶ。彼らは、主を愛しているので、主のための苦しみを少しもいとわないのである。(祝福の山 36, 37)

3月24日 恵みの御座

## 敬神の念をもって来る

「感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。」(ヘブル 12:28)

どのように敬神と信心深い畏れのうちに献身的な愛をもって神に近づくかについて、知的な理解がなくてはならない。わたしたちの造り主への敬神の欠如と、またこのお方の偉大さと大権の軽視がますます大きくなっている。しかし、神はこの終わりの時代にわたしたちに語りかけておられる。わたしたちはこのお方のみ声を嵐の中に、雷のとどろきの中に聞く。わたしたちは地震に、押し寄せる水のうちに、そして彼らの目の前でいっさいをさらう破壊的な要素の中に、神が許される災難について聞く。(セレクテッド・メッセージ2巻315)

この危険な時代に、神の戒めを守る民だと公言する人々は、敬神と信心深い 畏れの精神を失いがちな傾向に対して、警戒すべきである。聖書は、人が自分 の造り主にどのように近づくべきか一へりくだりと畏敬をもって、神なる仲保者を 信じる信仰を通して一であることを教えているである。ひざをかがめて、恵みの 臣民として、恵みの御座の足台にいる嘆願者として来なさい。こうして、彼は魂と 体と霊の全体が、自分の創造主に服していることを証するのである。

公でも個人でも礼拝においては、わたしたちが神に嘆願を捧げるときに、御前にひざまずいてひれ伏すのがわたしたちの義務である。わたしたちの模範であられるイエスは、「ひざまずいて、祈」られた。そして弟子たちについても、彼らもまた「ひざまずいて祈」ったことが記録されている。ステパノは、「ひざまずい」た。パウロは、「わたしはひざをかがめて、……父に祈る」と宣言した(エペソ3:14,15)。神の御前にイスラエルの罪を告白するときに、エズラはひざまずいた。ダニエルは、「一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した」(ダニエル6:10)。そして、詩篇記者の招きは、「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみ前にひざまずこう」である(詩篇95:6)。

「イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩んで、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え」(申命記 10:12)。 ……「見よ、主の目は主を恐れる者の上にあり、そのいつくしみを望む者の上にある」(詩篇 33:18)。「謙遜と主を恐れることとの報いは、富と誉と命とである」(箴言 22:4)。(レピュー・アンド・ヘラルド 1905 年 11 月 30 日)

恵みの御座 3月25日

#### へりくだりと聖なる畏れをもって来る

「主は聖なる者の会議において恐るべき神、そのまわりにあるすべての者にまさって大いなる恐るべき者です。」(詩篇 89:7)

神のみ前にくるすべての者の態度は、けんそんで敬神深いものでなければならない。われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神にむかって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話しかけるような言葉を用いる人がある。また、神の家の中において、地上の王たちの謁見室では決してしないような不謹慎な態度をとる人がいる。これらの人々は、自分が今、セラピムたちが賛美をささげ、み使いたちもそのみ前にあって翼をもって顔をおおう神のみ前にあるということをおぼえていなければならない。神は大いに尊ばなければならないかたである。神のご臨在を真に感じるものはみな、そのみ前に謙虚に伏……すのである。(人類のあけぼの上巻 286)

ある人々は、あたかも人間に話すかのように、無作法な態度で神に祈ることが、謙遜のしるしであると考えている。彼らは不必要かつ不敬に、「全能なる神」一抑えた調子と畏敬の念なくして決して唇から出てはならない、恐るべき聖なる言葉一を自分たちの祈りの中に混ぜこむことによって、このお方のみ名を冒涜している。……

天で聞かれ、地において答えられるのは、心からの信仰の祈りである。神は、人類の必要を理解しておられる。わたしたちが求める前に何を望んでいるかをご存知である。このお方は魂の疑いと誘惑との戦いをご覧になっている。嘆願者の真剣さに注目なさる。魂のへりくだりと悩みを受け入れてくださる。「わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である」と宣言しておられる。

御霊がわたしたちの嘆願をつづって下さるときに、確信をもって祈るのはわたしたちの特権である。単純に、わたしたちは自分たちの必要を主に申し上げ、み約束をわがものと主張すべきである。……

わたしたちの祈りは、やさしさと愛に満ちているべきである。もっと深く、もっと広く、救い主の愛を自覚することを求めるとき、わたしたちはもっと知恵を求めて神に叫ぶのである。もし魂をかきたてる祈りと説教が必要とされるときがあるとすれば、それは今である。万物の終りは間近である。ああ、わたしたちが心を尽くして主を求める必要性を認めるべきほど認めることができるならば!そのとき、わたしたちはこのお方を見出す。神がご自分の民に、いかに祈るかを教えてくださるように。(福音宣伝者 176, 178)

3月26日 恵みの御座

#### 聖なる経験

「全地は主を恐れ、世に住むすべての者は主を恐れかしこめ。」(詩篇 33:8)

聖天使たちは、多くの人々が神、すなわち大いなるエホバのみ名を用いる不敬な態度を不快に思い、嫌悪を覚えてきた。御使たちは、その聖なるみ名を大いなる畏敬の念をもって口にし、神のみ名を語るときには、いつも自分たちの顔を覆っている。そしてキリストの御名は彼らにとって非常に尊いので、それを大いなる敬神の念をもって語る。(教会への証 1 巻 410)

神に真の崇敬の念を抱くということは、神の無限の偉大さと神の臨在を自覚することによるのである。すべての者は見えない神に対して、こうした思いを心から抱かなければならない。祈りの時間と場所は神聖である。なぜならば、神がそこにおられるからである。そして、崇敬の念が態度とふるまいにあらわされるときに、その感じはさらに深まるのである。「そのみ名は聖にして、おそれおおい」と詩篇記者は言っている(詩篇 111:9)。そのみ名を語るとき、天使たちは彼らの顔をおおうのである。もしそうであるならば、堕落した罪深いわれわれは、どんな崇敬の念をもって、それを、われわれの口にしなければならないことであろう。(国と指導者上巻 23)

神の特別なご臨在の示されている場所をどうみなすべきかということについて、聖書にしるされている言葉を学び、熟考し、幾度も口にくりかえすことは、子供にもおとなにもたいせつである。神は燃えるしばの中からモーセに、「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」と仰せになった(出エジプト記 3:5)。ヤコブは天使の幻をみて、「まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった。……これは神の家である。これは天の門だ」と叫んだ(創世記 28:16, 17)。「しかし、主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ」とある(ハバクク 2:20)。

「主は大いなる神、

すべての神にまさって大いなる王だからである。……

さあ、われらは拝み、ひれ伏し、

われらの造り主、主のみ前にひざまずこう。」

「われらを造られたものは主であって、

われらは主のものである。

われらはその民、その牧の羊である。

感謝しつつ、その門に入り、

ほめたたえつつ、その大庭に入れ。

主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。」(詩篇 95:3-6; 100:3, 4) (教育 286 ~ 288)

恵みの御座 3月27日

#### あがめられる御名

「だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があが められますように。」(マタイ 6:9)

主のみ名をあがめるためには、わたしたちは、神に畏敬の念をもって語らなければならない。そのみ名は聖にして、おそれおおい」(詩篇 111:9)。決して神の称号や名称を軽々しく取り扱ってはならない。祈りをささげる時、わたしたちは至高者の謁見室にはいるのである。わたしたちは聖なるおそれをもって神のみ前に出るべきである。天使たちも神のみ前では顔をおおうのである。ケルビムや輝く聖なるセラピムも、厳粛な崇敬の念をもってそのみ座に近づくのである。まして、わたしたちのような有限で罪深い者は、いかにうやうやしい態度をもってわたしたちの造り主なる主のみ前に出なければならないことであろう。

しかし、主のみ名をあがめるということには、もっと多くの意味が含まれている。キリストの時代のユダヤ人たちのように、外面的には最大の尊敬を神にささげながら、神のみ名を絶えず汚すということもあり得るのである。「主の名」は「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる……悪と、とがと、罪とをゆるす者」である(出エジプト記 34:5~7)。キリストの教会について、「その名は『主はわれわれの正義』ととなえられる」と書かれている(エレミヤ書 33:16)。この名は、キリストに従うすべての者に与えられる。それは神の子の遺産である。家族は父の名によって呼ばれる。預言者エレミヤは、イスラエルのきびしい苦難の時に、「われわれは、み名によって呼ばれている者です。われわれを見捨てないでください」と祈った(エレミヤ書 14:9)。

このみ名は、天使たちや堕落したことのない諸世界の人々によってあがめられている。あなたがたが、「御名があがめられますように」と祈る時、あなたがたは、それがこの世において、また、あなたがたによってあがめられるようにと求めるのである。神はあなたを人々や天使たちの前に、ご自分の子としてお認めになった。「あなたがたに対して唱えられた尊い御名」を汚すことのないように祈ることを望むのである。神はあなたがたを神の代表者として世におつかわしになる(ヤコブ2:7参照)。生活のあらゆる行ないのうちに、あなたがたは神のみ名をあらわすべきである。この願いは、神のご品性を持つことを要求する。生活と品性において神のいのちとご品性そのものをあらわさないならば、神のみ名をあがめることも、世に神をあらわすこともできない。このことは、キリストの恵みと義を受けることによってのみなされるのである。(祝福の山 132~134)

3月28日 恵みの御座

## わたしたちの絶えざる依存

「主はみくらに座して、とこしえに王であらせられる。主はその民に力を与え」(詩 篇 29:10, 11)

恵みの御座は、わたしたちの絶えざる拠りどころである。……キリストのうちにわたしたちのための力がある。このお方は御父の前のわたしたちの弁護人であられる。このお方は、御旨をご自分の民に伝えるために、ご自分の領地のいたるところにその使命者を急派される。このお方はご自分の教会のただ中を歩まれる。ご自分に従う人々を聖化し、高め、高尚にしたいと望んでおられる。真にこのお方を信じる人々の感化力は、世における命の香りとなる。このお方はご自分の右の手のうちに星を持っておられ、それらを通してご自分の光が世に輝くようにするのが、このお方のご目的である。こうして、ご自分の民を天の教会におけるより高い奉仕のために準備したいと望んでおられる。このお方はわたしたちになすべき大きな働きを与えて下さった。それを正確に決意をもってなそうではないか。わたしたちの生活において、真理が自分たちのために何をしてくれたかを示そう。

「七つの金の燭台の間を歩く者」(黙示録 2:1)。このお方は地の隅々にわたって、ご自分の教会のただ中を歩まれる。彼らがご自分の御国を前進させることができるだけの霊的な状態にあるかを見ようと、非常な関心をもって彼らを見守っておられる。キリストは教会のすべての集会に出席しておられる。ご自分の奉仕にかかわりのあるすべての人をご存知である。だれの心が聖なる油で満たし、他の人々に与えることができるかをご存知である。わたしたちの世界でキリストの働きを忠実に前進させ、言葉とわざにおいて神のご品性を表しつつ、自分たちのための主のご目的を果たす人々は、このお方の御目に非常に尊い。キリストは人々がよく手入れされた庭園で、自分の植えた花々の香りを喜ぶように、彼らを喜ばれる。(教会への証 6 巻 418, 419)

燭台も、教会も、それ自体で輝くことはない。そのすべての光はキリストから出ている。今日、天にある教会は、ただ地上にある教会を補完するものにすぎない。しかし、それはもっと高く、もっと壮大一完全である。同じ神聖な輝きは永遠にわたって続くのである。主なる全能の神と小羊がその光であられる。どの教会も、神の御座から受けて栄光を放つのでなければ、光を持つことはできない。(パイプル・コメングリ「E.G. おワイトコメント] 6巻 1118)

恵みの御座 3月29日

# 一人びとりの心の中の御座

「また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み」(エペソ 3:17)

神はわたしたちを買われた。そして、各々の心の中に御座をご自分のものとして要求なさる。わたしたちの思いと体はこのお方の支配下におかれ、生来の習慣と食欲は魂のより高い要求に従属するものとされなければならない。しかし、わたしたちはこの働きにおいて自分自身により頼むわけにはいかない。わたしたちは自分自身の導きに従っては安全ではない。聖霊がわたしたちを新たにし、聖化しなければならない。神の奉仕に、中途半端な働きがあってはならない。(パイプル・コメンクリ「E.G. おりイトコメント」6巻1088)

心が罪から清められるとき、かつては自己放縦と地上の宝への愛着が占めていた御座にキリストが就かれる。キリストのみかたちが顔の表情に見られるようになる。聖化の働きが魂のうちに進められる。自己義は追放される。キリストに従って、義と真の聖潔のうちに創造された新しい人を着ているのが見られる。(管理職への勧告 27, 28)

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二 3:18)。キリストを眺めるということは、そのみ言葉のうちに与えられたとおりのこのお方のご生涯を研究することを意味する。わたしたちは隠された宝のように真理を求めて深く掘り下げなければならない。目をしっかりとキリストに留めなければならない。このお方を自分の個人的な救い主として受け入れるとき、それによって恵みの御座にはばかることなく近づくことができるようになる。眺めることによって、わたしたちは変えられ、品性において完全であられるお方に道徳的に同化する。このお方の着せられる義を受けることによって、聖霊の変化させる力を通して、わたしたちはこのお方に似たものになる。キリストのみかたちが大事にされ、それが全存在をとらえる。(パイプル・コメンタリ[E.G. おりトコメント) 6巻 1098)

魂が向上することは、心のうちにイエスが統治しておられることを示している。 イエスが心を通してご自分の平安と喜びと、ご自分の愛の祝福された実を放つと き、その心はこのお方の宮となり、御座となる。「あなたがたにわたしが命じるこ とを行うならば、あなたがたはわたしの友である」とキリストは言われる(ヨハネ 15:14)。(教会への証5巻553)

神にあなたのできる最も尊い捧げ物をささげなさい。あなたの心をこのお方に 捧げなさい。(神のむすこ娘たち 98) 3月30日 恵みの御座

# 分かたれずに占有する

「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。」(ガラテヤ 5:24)

わたしたちは、情と欲と共に自分の肉を十字架につけるよう、命じられている。ではどうすればよいか。からだに苦痛を加えるべきであろうか。加えてはならない。だが罪の誘惑にとどめをさしなさい。堕落した思いを追い払いなさい。すべての思いをイエス・キリストの中にとりことしなさい。……神に対する愛が最高に支配していなければならない。キリストは分裂していない王座にすわりたまわねばならない。わたしたちのからだは、キリストに買い取られた財産であると考えねばならない。からだの各部分は義の器とならなければならない。(アドベンチスト・ホーム 131, 132)

この世には二つの王国がある。キリストの王国とサタンの王国である。わたしたちは各々、これらのいずれかの王国に属している。ご自分の弟子たちのためのすばらしい祈りの中でキリストは次のように言われた。「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました」(ヨハネ 17:15 ~ 18)。

わたしたちが世から自らを隔離してしまうのは神の御旨ではない。かえって世にいながら、自らを神に聖別すべきである。わたしたちは世にならって形づくるべきではない。矯正的な感化力として、味を保った塩のように、世にあるべきである。聖でなく、純潔でない、偶像礼拝的な時代にあって、わたしたちはキリストの恵みには人のうちに神のみすがたを回復する力があることを示しつつ、純潔で聖なるものでなければならない。世に対して救いの感化力を働かせなければならない。……

世は罪のらい病の家、堕落の集団となってしまった。……わたしたちはその方法を実践したり、その習慣に従ったりしてはならない。絶えず、その怠慢な原則に抵抗しなければならない。……

恵みの祝福が人に与えられているのは、全宇宙と堕落した世界が他の方法では見ることのできないもの、すなわちキリストのご品性の完全さを見ることができるためである。大いなる医師は、男女に、ご自分の恵みを通して神の大いなる日に次の尊い証を受けるような生き方ができることを示すためにこの世に来られた、「あなたがたは、キリストのうちにあって完全である」(コロサイ 2:10)。(健康についての勧告 591 ~ 593)

恵みの御座 3月31日

# 今より後、とこしえに

「そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その国を治め、今より後、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。」(イザヤ 9:7)

この世においては、われわれは、贖いという驚嘆すべきテーマについてほんの初歩のことしか理解できない。辱しめと栄光、いのちと死、公平とあわれみとが、十字架において出会ったことを、われわれの有限な理解力でどんなに熱心に探り調べてみても、そしてわれわれの知力のかぎりを尽くしてみても、われわれはその意味を十分につかむことはできない。贖いの愛の長さ、広さ、深さ、高さは、かすかにしか理解されない。贖いの計画は、贖われた者たちが、見られているように見、知られているように知る時においてさえ、十分には理解されない。そして、永遠にわたって、新しい真理がたえず示されて、心は驚きと喜びに満たされるのである。地上の嘆き、痛み、誘惑は終わり、その原因は除かれても、神の民は、自分たちの救いのためにどんな価が払われたかということについて、はっきりした理解を持ち続けるのである。

キリストの十字架は、永遠にわたって、贖われた者たちの科学となり歌となる。 栄光につつまれたキリストのうちに、彼らは、十字架につけられたキリストを見る。 広大な空間に、数えきれないほどの諸世界を、その力によって創造し、支えてお られるおかた、神の愛するみ子、天の大君、ケルビムや輝くセラピムが喜んであ がめるおかた、そのおかたが、堕落した人類を救うために身を卑しくされたことは、 決して忘れられることがない。また彼が、罪の苦痛と恥とを負われ、天父から はそのみ顔を隠されて、ついには失われた世界の苦悩がその心臓を破裂させて、 カルバリーの十字架上でその命を絶たれたことは、決して忘れられることがない。 諸世界の創造者、すべての運命の決定者が、人類に対する愛から、ご自分の栄 光を捨てて、ご自分を卑しくされたことは、いつまでも宇宙の驚嘆と称賛の的と なる。救われた諸国民が、贖い主を見て、そのみ顔に天父の永遠の栄光が輝い ているのをながめるとき、また、永遠から永遠にいたるイエスのみ座をながめ、 イエスのみ国には終わりがないことを知るとき、彼らはどっと歓喜の歌声をあげて、 「ほふられた小羊、ご自身の尊い血によって、わたしたちを神に 贖って下さった おかたは、替美を受けるにふさわしい、替美を受けるにふさわしい」と叫ぶので ある。(各時代の大争闘下巻 433, 434)

#### 研究3

「後の雨を受けるためのわたしたちの準備(Ⅲ)」

# 信仰と行い

「わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか」(ヤコブ 2:14)。

ある日、有名なアメリカ人の伝道者D・L・ムーディは、信仰と行いのどちらの方がもっと重要かとたずねられました。それにこたえて、ムーディは別の質問をしました。「鳥が天に向かって飛ぶのに、右の翼と左の翼のどちらがもっと重要ですか」。もしムーディがボートに座っていたなら、おそらく次のようにたずねて答えたことでしょう、「ボートをこぐ者にとって、右の櫓(ろ)と左の櫓のどちらがより重要ですか」。

信仰と行いの関係は、次の霊感の書き物の中でわたしたちにはっきりと示されていますが、次のように表現することができます。もしわたしたちが自分の分を喜んでなすなら、神はご自分の分をなしてくださる、ということです。

「もしわたしたちが、神と協力し、自分の分を果たすのに忠実であれば、神はわたしたちを通して働きかけ〔実現に至らせ〕るのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。しかし、このお方はもしわたしたちが何の努力もしないのであれば、わたしたちを通して働くことがおできにならない。もしわたしたちが永遠の命を得たいのであれば、わたしたちは働かなければならない、しかも熱心に働かなければならないのである。……しばしばくり返されてきた抽象によって欺かれないようにしよう。『あなたがしなければならないことは、ただ信じることです』。信仰と行いは、わたしたちが不信の潮流に逆らって流れを進んで行きたいのであれば、等しく用いなければならない二つの櫓である。」(福祉伝道 315,316)

贖いの計画のこの側面は、エデンの時代にも永遠の命に至る道を示す道路地

図として知られていましたが、少数の人にしかその価値を認められませんでした。

## 二種類の人々

カインとアベルは、救いの計画に関するかぎり、正反対の方向へ進む二種類の人々を代表しています。アベルは神のご計画の中で指摘されている「道」、すなわち「命にいたる道」に従う人々を代表しています。カインは人間の発明や錯覚の道、すなわち「滅びにいたる道」に歩む人々を代表しています。マタイ7:13,14をお読みください。

「カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。というのは、ほとんどすべての偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである。……人類は、自分を再生させる力を持ち合わせない。それは、神に向かって向上するのでなくて、サタンのほうへ堕落する傾向がある。キリストだけがわれわれの希望である。」(人類のあけぼの上巻 68, 69)

## 偽物の信仰

偽物の信仰がいつも行いのない信仰とは限りません。それは行い一偽者の行い一を伴っていることもあります。神のしもべであると公言している人々のある者たちでさえ、自分ではまじめに神に奉仕をお捧げしていると信じながら、自分たちが偽物の行いをうみだすという点について欺かれることもあるのです。カインだけが悪い行いを生じさせたのではありません。神のしもべたちのある人々もまた、間違いを犯したのでした。アブラハムが、約束された息子の母親になるだろうと期待し、第二の妻としてハガルをめとったとき、彼の信仰には行いが伴っていました。しかし、どんな種類の行いだったでしょう。ヤコブは自分に長子権があると信じて、それを得るために行いを用いました。しかし、彼が用いた行いはどのような種類のものだったでしょう。モーセはイスラエルの民がエジプト人の奴隷のくびきから救出されるべき時がきたと信じ、彼の民の前に模範を示すためにヘブル人の奴隷を擁護しました(使徒行伝 7:23 ~ 25)。しかし、彼が示したのは、ど

んな種類の行いだったでしょうか。わたしたちがわかりますように、信心深い行いと偽物の行いの間には相違があります。

## 行いに誤っておかれた功績

ほとんどすべてのキリスト教以外の宗教では、行いに功績があると思われています。アジアの国でおこった実際の例があります。あるクリスチャンの伝道者が川沿いの道を急いでいたとき、女の人が二人の息子を連れて、水辺にいるのを見ました。彼女に質問をしているときに、彼は彼女が自分の神に捧げ物をする決心をしようとして悩んでいるのがわかりました。伝道者はなんとか思いとどまらせようとして、すべての人類のために、そしてまた彼女のために、ご自分のひとり子を犠牲にすることに同意された神の愛について、彼女に語りました。彼女は彼の言っていることに心を動かされた様子もありませんでした。ついに彼は彼女を残していきました。数時間後に彼は彼女を見ましたが、彼女が腕に抱いていたのは病気の子供一人だけでした。そのクリスチャンは何が起こったのかを悟りました。彼女は健康そうな男の子を川のワニに向かって投げたのです。「わたしはわたしの神に捧げ物をしたのです」と彼女は答えました。「なぜあなたの健康で美しい子を犠牲にしたのですか」。彼女は立ち上がって答えました。「わたしたちは神に自分たちの最上のものを捧げます」。偽物の信仰は偽物の行いにさえ功績をおくのです。

よい行いに功績を置くという考えは、異教に端(たん)を発していますが、異 教の宗教にばかりとどまっていたわけではありませんでした。キリストの時代のユ ダヤ人たちは自分たちの善行が、自分たちを神に受け入れられる者とすると信じ ていました。ローマ・カトリックは、善行による救いの教理を教えます。わたした ちは自分たちの善行に基づく救いを主張できるでしょうか。神のみ言葉は何と言 っているでしょうか。

「同様にあなたがたも、命じられたことを皆してしまったとき、『わたしたちは〔何の功績もない〕 ふつつかな僕です。 すべき事をしたに過ぎません』と言いなさい」 (ルカ 17:10)。

永遠の命は、神の賜物です (ローマ 6:23、エペソ 2:8)。 それは「行いによるのではない。 それは、だれも誇ることがないためなのである」(エペソ 2:9)。

## 行いによる救いの教理が正体を暴露される

ワルド派の人々は、ローマ・カトリックの教えと聖書の教えは対立していることを 理解していました。「善行によって、神の律法を犯した罪を贖うことができるという 教義は、虚偽に基づくものであると彼らは主張した。」(各時代の大争闘上巻 75)

「ルターは、ある日、敬虔な思いをもってこの〔「ピラトの階段」と呼ばれる〕 階段を上っていた。すると突然、雷のような声が、『信仰による義人は生きる』と 言ったように思われた(ローマ 1:17)。彼はすぐに立ち上がり、恥と恐怖の念に かられて、その場を急いで去った。」(各時代の大争闘上巻 145)「ちょうどこの ころ、ルターはフスの著書を読み、彼自身が支持し教えていた信仰による義とい う大真理が、ボヘミアの改革者によって唱えられていたことを知ったのである。」 (各時代の大争闘上巻 163)

信仰による義認の教理はルターによって考案されたものではありませんでした。それは、律法の行いには、何の功績もなく、罪人を義認する(あるいは許す)ことができないと教えたパウロの著書を研究していたときに、彼が発見したものだったのです。

「人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、わたしたちもキリスト・イエスを信じたのである。 ……なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることがないからである」(ガラテヤ 2:16)。

「わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、 信仰によるのである」(ローマ 3:28)。

## もう一つの異端の危険一信仰、信仰のみ一

行いによる救いの教理―わたしたちの善行にあたかも自分の救いの利益を主張できる功績があるかのような教理―がワルド派の人々や彼らに続いた改革者たちによって正体を暴露されたとき、サタンは打ち負かされましたが、彼はあきらめませんでした。すぐに他の偽りを考案したのです。それは、律法に対する服従に

何の功績もないから、必要ない、というものでした。この異端もまた、服従が要求されていると教える聖書に矛盾しています。

「なぜなら、律法を聞く者が、神の前に義なるものではなく、律法を行う者が、 義とされるからである」(ローマ 2:13)。「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律 法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法 は確立するのである」(ローマ 3:31)。

大欺瞞者は少なからぬ神学者たちの思いに神の律法が十字架につけられ、ク リスチャンは戒めを守る義務から解かれたという考えを入れました。 この考えをも っともらしくするために、彼はこの新しい考えを支持するかのように見えるいくつ かの聖句に対するゆがんだ解釈を暗示したのでした。「律法の下にではなく」と いう聖句は(ローマ 6:15)、「わたしたちは律法から解放され」たからであり(ロ ーマ 7:6)、したがってそれは「わたしたちが律法によって死刑宣告の下にいるの ではない」、なぜなら、わたしたちは「キリスト・イエスにあ」って、「罪に定めら れることがない」からであるという意味だと、そしてサタンは人々が、「わたしたち は律法にしたがう義務の下にはいない。わたしたちは律法への服従からは自由な のだ」と読むようそそのかしました。キリストの死によって、不法者を殺す(ロー マ 7:9~11、コリント第二 3:6)、律法の要求を満たすために、わたしたちが死 んだ (ローマ 6:6; 7:4, 6; 8:1 ~ 4) と述べている聖句から、欺瞞者は自称クリ スチャンたちに十誡の律法が死んだのだと言わせています。礼典律が廃されたと 言及している聖句 (エペソ 2:15, コロサイ 2:14, ヘブル 10:1) を、彼は正直な魂 にさえ、これが道徳律に対して言及しており、あたかも新約聖書において、この 二つの律法の間には何の相違もみとめられないかのように読むよう促しています。 律法の行いには罪人を義認する功績はないと述べている聖句(ローマ 2:21, 28) を根拠に、彼は律法の行いは必要ではなく、人は律法への服従がなくても救わ れうると、人が説明するようにそそのかしています。

## 聖書は何と言っているか

律法の行いには、それ自体何の功績もなく、罪人を義認する(あるいは許す) ことができないことが明らかな一方、義認された(あるいは許された)罪人はす でに獲得した義認を保持するために律法にしたがわなければならないこともまた明らかです。イエスは姦淫で捕らえられた女が義認された(許された)とき、彼女に仰せになったことをわたしたち一人ひとりにも仰せになっています。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」(ヨハネ8:11)。再び罪に陥ることは、すでに得た義認を無効にするのと同じです。

「彼らが、主また救主なるイエス・キリストを知ることにより、この世の汚れからのがれた後、またそれに巻き込まれて征服されるならば、彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる」(ペテロ第二2:20)。

罪とは不法ですから(ローマ 3:20, 7:7, コリント第一 15:56, ヨハネ第一 3:4)、罪を犯すことをやめるということは、神の聖なる律法のすべての戒めに従うようになることを意味しています(マタイ 5:19, ルカ 16:17, ヤコブ 2:10)。この要求は、わたしたち人間の力で応えることはできませんが、わたしたちのうちに生きておられるキリストの力を通して応えることができます。もしわたしたちがパウロと共に「キリストが、わたしのうちに生きておられる」と言うことができるなら、わたしたちもまた、このお方が「〔わたし〕を守ってつまずかない者と」することがおできになると言うことができます(ユダ 24)。キリストは、ご自分から離れては、わたしたちは何一つできないと警告なさいましたが(ヨハネ 15:5)、ご自分が共におられれば、わたしたちの救いという益のために必要なことは何でもできると保証なさったのです。パウロは「わたしを強くして下さるキリストによって、何事でもすることができる」と言いました(ピリピ 4:13 英文訳)。

キリストが来られるとき、「それぞれのしわざに応じて報い」るために、ご自分の報いをたずさえてこられます (黙示録 22:12)。マタイ 7:16 ~ 23 および 25:31 ~ 46 をお読みください。これは、このお方が来られる前に、調査審判がすべての魂の運命を各自のわざにしたがって決定することを意味しています。

「神は、おのおのに、そのわざにしたがって報いられる。すなわち、一方では、耐え忍んで善を行って、光栄とほまれと朽ちぬものとを求める人に、永遠のいのちが与えられ、他方では、党派心をいだき、真理に従わないで不義に従う人に、……悪を行うすべての人には」「怒りと激しい憤りとが加えられる」(ローマ2:6~9)。わたしたちの行いは審判のときに考慮されます。聖書は、しかしながら、行いによる救いといったようなものがあるとは教えていませんし、また行いのない救い

があるとも教えていません。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである」(エペソ 2:8)、それは「愛によって働く信仰」であり、御霊の実のすべてを結ぶのです(ガラテヤ 5:6, 22, 23)。信仰と行いはいつも一緒です。

「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである」(エペソ 2:10)。

#### (50 ページの続き)

神様が数多く下さったすばらしいおくりものの一つです。美しい鳴き声の小鳥、 シジュウカラは、羽をふくらませて、小さい体のまわりの温かい空気をつつみ こむと、寒い冬でも元気に歌うことができます。

春には、卵を産んで、ひなを育てます。メスはたいていオスより色が単調で、安全に巣(す)にかくれたり、赤ちゃんを敵から守ったりできるようになっています。鳥の巣は、しばしば、小枝、かれ草、葉っぱ、どろ、毛、羽、あるいはひもでさえ、なんでも使えそうな材料をみつけて作られています。「すずめがすみかを得、つばめがそのひなをいれる巣を得るように、万軍の主、わが王、わが神よ、あなたの祭壇のかたわらにわがすまいを得させてください」(詩篇84:3)。イエスはこれらの小さな生き物にとても心をかけておられるので、ご自分が地上に来られたときにご自分が持っておられた地上の富よりも多くを彼らに与えて下さいました。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」(マタイ8:20)。

「『野の花を考えよ、』『鳥を見よ』と仰せになるのは、花を作り、すずめに歌をさずけられたおかたである。自然の美しさの中から、学者の知っている以上の神の知恵を学ぶことができる。ゆりの花びらに神はあなたにおくることばをお書きになった一そしてそれは不信と自我と思いわずらいを捨て去るときに、はじめてあなたの心が読むことのできることばである。さえずる小鳥ややさしい花を神がお与えになったのは、あなたの人生の歩みを明るく楽しいものにしようとする父の心からあふれ出る愛のゆえではなかったろうか。花や小鳥はなくても生存に必要なものはすべて与えられていた。だが神は、単に生存に十分なだけを備えることで満足なさらなかった。神がいかにあなたを愛しておられるかを知らせるために、地にも大空にも美しいものを満たされたのである。」(祝福の山118,119)

# グルテンミートとカシューナッツの野菜炒め

## (材料)(4人前)

グルテンミート\* 小缶1

カシューナッツ カップ 1

干しいたけ 中3コ

たけのこ小1本

長ネギ 5-6cm

ピーマン2個

しょうが 少々

にんにく 少々

しょう油大さじ2

砂糖 小さじ1

片栗粉 適量

油 適量

## (つくり方)

- 1. グルテンミートを 1 センチのさいの目に切り、醤油としょうが汁をふりかけ、片栗粉をまぶして、油で揚げておく。
- 2. カシューナッツを多めの油で炒めるか、又は、揚げておく。
- 3. しいたけはもどして角切りにし、たけのこは、さいの目切り、ねぎはあられ切り、にんにくはうす切り、しょうがは千切り、ピーマンは角切りにする。
- 4. フライパンで油を熱し、にんにく、しょうが、ねぎを入れ、強火で炒め、 その中にしいたけ、たけのこを入れて炒め、しょう油と砂糖で味をとと のえ、水どき片栗粉でとろみをつける。
- 5.4の中に、1と2とピーマンを入れて混ぜ、さらに盛り付ける。
- \* グルテンミートは、小麦グルテンで作られたタンパク質です。自然食品店にありますが、高野豆腐で代用ができます。そのときは、だし汁で戻した高野豆腐をお使いください。
- \* しょう油加減は、お好みで調節して下さい。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

#### □聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。



【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



# 鳥をながめる

「五羽のすずめは二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはいない。その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。」(ルカ12:6,7)

なぜ鳥は鳥なのでしょうか。飛ぶからですか?必ずしもそうではないですね。 飛べない鳥もいます。しかし、ほとんどすべての鳥は、次の共通点があります。

- 1. だいたい翼(つばさ)がある
- 2. 背骨(せぼね)がある
- 3. 空気を呼吸する
- 4. 殻(から) のある卵からひながかえる
- 5. 血(ち) が温かい
- 6. くちばしがあって、歯(は) はない
- 7. 羽と (鳥の胸の) 叉(さ) 骨がある

いろいろな大きさや種類の鳥がいますが、それぞれの必要におうじた翼をもっています。たとえば、カモメなど海鳥には、水の上でたやすくすべることができるように、長細い翼があります。タカやほかの猛禽類(もうきんるい) は、空高くかけあがることができるように、広くて溝のある翼をもっています。ウズラのように丸々した鳥には、すばやく飛び立てるように、短くて丸い翼があります。

空を飛ぶ鳥の骨はどれも軽くて空洞になっています。空気を入れる場所の間に支柱(しちゅう)となるうすい骨があります。これらの鳥には、たいてい三種類の羽があります。あたたかくするためのダウンフェザー、体を保護するためのボディーフェザー、そして飛ぶのを助けるための飛行フェザーです。羽は、